



みらいこどもえん

6月号

2019年5月31日

田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦芳子

大人への信頼関係とことばの力

紫陽花が美しく咲く季節となりました。子ども達も、園生活に大分慣れ、表情や行動が豊かになってきました。朝、正門のお出迎えて、「園長先生おはよう！」と挨拶した後にタッチするというコミュニケーションもできるようになり、少し心を開いてくれるようになったのかな？と、うれしい気持ちと毎日の積み重ねの大切さを痛感しています。

さて、進級、入園から2か月が経ち、一見落ち着いたかのように感じられますが、この6月は、「心の安定」の上で、とても大切な時期です。紫陽花の花が、繊細に色変わりするように、子ども達も保護者の方も「この先生は、ありのままの私を愛してくれる人？」「大切に対応してくれる人？」と、保育者の毎日の何気ない行動や言葉かけによって、安堵したり不安になったりします。また、友達の間でも、けんかやイライラが多くなりお互いを確かめ合う時期でもあります。子どもは、特に、大人に温かく見守られているという実感が得られて、初めて心を相手に委ねることができ、安心して生活を送ることができます。皆さんは、しっかりとお子さんの心を受けとめていますか？

先日、にじ組の女の子たちからご招待を受け、「パプリカ」の曲に合わせて、アイドル顔負けのセリフあり、フォーメーションありのダンスショーを見せてもらいました。どの子も生き生きとして、自信さえ感じられ、これこそ、「自分で好きなものを見つけてやりたいことに夢中になる」というみらいこども園の理想とする子ども達の姿でした。周囲も魅力に吸い込まれ、次第に参加するようになり、輪がどんどん広がって、新しい世界も生まれていきました。これは、長時間かけた周囲の大人の見守りと子ども一人一人に自信が持てるような言葉かけを通した毎日の信頼関係の積み重ねの結果から生まれた宝物だと思います。今後も、主体性をもって行動する子がどんどん増えるといいですね。

一方、新入園児や低学年のお子さんは、まだまだ大人の助けが必要になります。保護者の方々とすれば、保育中の様子が分からない分、帰宅してからのお子さんの様子や会話からの情報で、少しでもお子さんが不安定であれば、『家の子ちゃんとみてもらっているの？』と心配になるのは、当然のことです。常日頃から保育は、子どものことを第一に考えて、「どうして、この子は、今こういう行動をするのか、よく子どもの心の奥を見ましよう。自分から歩み寄って保育をしましよう。保護者の方にも丁寧な対応をしましよう。」と、職員同士声を掛け合って、保育を進めています。しかし、子どもと職員、保護者と職員の信頼関係がうまく一致しないこともあり、お互い不安ばかりが募ってしまう傾向が見受けられます。この信頼関係の構築は、直ぐできるものではありません。子どもは、いつも温かい目線で見守られ、「声をかけてくれる。自分は関心を持たれている。話を真剣に聞いてくれる。一緒に笑ってくれる。抱っこしてくれる。手をつないでくれる。」など、大人の積極的な態度と共感、スキンシップが、根気よく続くことです。又、誰にでも、日頃からの挨拶、言葉の伝え方も、相手を思いやるものでなくては、本心は伝わりませんね。お子さんが、大好きな先生や友達のことをご家庭でも話題にし、園に喜んで登園する姿やお子さんの成長が感じられれば、保護者の方にも理解され、信頼も得られるようになると思います。

紫陽花の花言葉には「強い絆で結ばれる」という意味があります。雨が多く蒸し暑い日が続いて、生活環境にも影響があると思いますが、職員一同、子どもさんと保護者との信頼関係に「強い絆」を結ぶことができますよう、努力していますので、今後ご理解ご協力をお願いいたします。

